



# 校長室だより 足立区立第九中学校

第79号 平成29年5月2日発行 長塚琢磨



## 【生徒会が熱く語る厳粛な任命式】

4月17日、生徒会長の「覚悟とやる気、自覚と責任」という言葉から、心が一つになった厳粛かつ活力がある任命式が始まりました。生徒会としての自覚と誇りを感じるとともに、生徒自身で創り上げていこうという**自治の精神**を感じました。



任命式の様子

校長として、大変うれしく思うとともに、素敵に発展する期待と予感がしました。

## 【創立70周年への思い！】

足立九中後援会から、創立70周年を祝うとともに、ますますの発展を期待して懸垂幕が寄贈されました（5月19日から設置）。

また、第1期生から「入学式には出席できませんでしたが、第71期生の皆さんが健やかに楽しい生活が送れますことを祈っています。先生方のあたたかなご指導を信頼し期待しています。」という手紙をいただきました。多くの方々に愛され見守られていることに感謝しています。



## 【全力を尽くし個性を磨く部活動】

4月12日に部活動説明会があり、部長を中心にそれぞれの部活動の素敵さを語り、演技などを実演しました。思春期の難しい時期に、仲間と共に心身を鍛えることは大変重要なことですので、応援をよろしくお願いします。

神様が

たった一度だけ

この腕を動かしてくださいとしたり

母の肩をたたかせてもらおう

風に揺れる

ぺんぺん草の実を見ていたら

そんな日が

本当にくるような気がした

星野富弘「愛深き淵」より

※ 星野富弘は、中学校の体育教師でしたが、運動中の事故で脊髄を損傷し、手足の自由がきかなくなりました。その後、努力して、口に筆をくわえて文や絵を描く詩人・画家となりました。

## 【離任式の感動】

4月28日（金）に、離任式がありましたのでご報告します。

全生徒が、今まで様々な場面でお世話になり、また九中を発展させてくださった先生方に感謝の気持ちを表し、最後は九中生らしい迫力ある歌声で先生方をお送りしました。離任された先生方が退場されるときの涙が印象的でした。

当日は、仕事の関係で持木啓子先生と小林郁子は出席できませんでしたが、メッセージをいただきました。伊藤悦子先生、奈良実紀先生、佐通朗子先生のお話、そしてお二人からのメッセージに共通していえることは、九中は素敵な学校であり、その誇りと校風を大切にし、さらに発展させてほしいということです。

特に、九中生に対して「挨拶の素晴らしさ」「礼儀正しさ」「何事にも頑張る力」「まっすぐな心」「自分たちで創り上げるパワーと団結力」を高く評価してくださいました。その期待を真摯に受け止め、私自身も頑張ろうと決意を新たにすることができました。



伊藤悦子先生



奈良実紀先生



佐通朗子先生

## 【教員の気持ち:日誌より】生徒も教員も本気で取り組んでいます。

【A教員】 本日より全学年そろってスタートしました。朝の登校も8時05分にはほぼ登校を終えており、新年度頑張ろうという生徒の意識を感じた。これを維持できるよう指導をしっかりと行きたい。

【B教員】 一日を終えるごとに、できないことができるようになっていき、子どもたちの成長が目に見えています。これからの成長が楽しみであり、それと同時に身が引き締まる思いです。

【C教員】 任命式で各学年の委員の生徒が大きな声で返事ができた。特に、代表の生徒たちと生徒会役員の態度が立派だった。これからの活動がとても楽しみである。

## コラム：「羽生結弦選手の自分ルール」始業式での校長の話より

羽生結弦選手が、4月の世界選手権大会において、フリーの演技で世界歴代最高得点をマークして、逆転優勝したことは知っていますか。

宮城県出身で、6年前「3.11」東日本大震災でつらい体験や、練習できない状況にあった羽生結弦選手は、2つの自分ルールを決めたそうです。第一は「一生懸命な姿で皆に勇気を与えたい」、第二は「メダルを取って温かく支えてくれた故郷の人に感謝の気持ちを表したい」です。

そして、難しい4回転ジャンプを何度も跳ぶために、筋力を鍛え、食事を工夫してスタミナを付け、失敗を何回も繰り返しながらも練習で、最高の演技を身に付けました。

まさに、九中の「磨く」「挑む」「思いやる」の精神です。君たちには無限の可能性が 있습니다。明確な目標をもち努力し続けてください。一年間でこれだけ成長したと自分に誇りをもてるようになってください。また仲間がいることを忘れず、助け合い、励まし合って、自分自身も仲間も成長させてください。私も、素敵な君たちと共に頑張ろうと考えています。